

第 24 期・第 3 回材料工学委員会議事録

日時：平成 30 年 6 月 5 日（火）13:00-15:00

会場：日本学術会議 6 階 6-A(1)(2)会議室

出席委員（敬称略、名簿順、*印は SKYPE での出席）：

山口周、片岡一則、乾晴行、筑本知子、松宮徹、五十嵐正晃、大貫惣明、河村能人、岸田晶夫、小出康夫、須山章子、陶山容子、田中敏宏、津崎兼彰、長井寿、中嶋英雄、中野裕美、新家光雄、塙隆夫、東健司、細野秀雄、御手洗容子*、森田一樹

学協会連合体：岩澤康裕（日本化学連合会長、説明者）、田近英一（日本地球惑星科学連合副会長、説明者）、鈴木淳史（日本 MRS 会長）

議事：

1. 前回議事録の確認

資料 1 について委員長より説明があり、承認された。なお委員長より、「7. 委員会開催日程について」に関して、第 4 回委員会を平成 30 年 10 月 30 日（火）に開催予定とあるが、都合が悪いため 11 月 1 日（木）を第一候補として後日委員の皆様のご都合を伺い調整予定である旨の発言があった。

2. 学協会連合体の活動について

（一般社団法人）日本化学連合については岩澤康裕会長（電気通信大学）より、また（公益社団法人）日本地球惑星科学連合については田近英一副会長（東京大学）より、それぞれの連合設立の背景と設立までの経緯、設立趣旨、加盟学会の現状、今までの活動の状況、連合体のメリット・デメリット、今後に向けての課題についての講演があり、出席委員からは以下のような意見があった。

- ・ 学術的な議論は、細分化された分野で集まった方が、議論が活発化する。それぞれの学協会の自由度を認めながら一緒にやることでシナジーを発揮することが重要ではないか。
- ・ 材料工学分野の学協会では企業参加者が多い。日本地球惑星科学連合の場合は、大学・国研等が多いので、状況が異なる。
- ・ 学協会連合の形成において、大学統合などのノウハウも参考になるのでは。

3. 学協会との連携について

科学者委員会学協会連携分科会において、学協会との連携について、理工学学協会からの意見をまとめている。その中で、現行の公益社団法人制度では安定した学協会の経済基盤を作ることが難しいことが問題となっており、公益学術法人制度についての提言を発出する方向で議論が進められている。

4. 各分科会の活動報告

バイオマテリアル分科会より、平成 30 年 11 月 13 日（火）9:30-12:00 に神戸国際会議場において、「イノベーションプラットフォームとしてのバイオマテリアル 2018」開催についての提案があり、承認

された。

5. 総会報告

委員長より、4月3-4日に開催された総会において、山際会長が活動方針として「学術会議が発出した様々な提言の発信力強化」と「SDGsをコアとした活動の展開」について説明した旨の報告があった。

6. その他

- ・ 委員長より、内閣府において大学改革について、各地域一法人複数大学の考え方が提案されており、その議論を注視する必要があると発言があった。
- ・ 議事録について「委員会等の議事要旨の公開等に関するガイドライン」に基づき委員会開催後8週間以内に確定しweb公開するため、委員の確認をとるが、最終案の承認は委員長に一任することとして、承認された。

配布資料

資料1 第24期・第2回材料工学委員会議事録案

資料2 SDGsのための資源・材料の循環使用検討分科会第一回議事録案

資料3 新材料科学検討分科会第一回議事録

資料4 公開シンポジウム「SDGs時代における資源開発後の鉱山環境対策のあり方」ポスター

資料5 第三部とSDGsの関係

資料6 講演会、シンポジウム等主催提案書（案）

材料工学委員会バイオマテリアル分科会主催シンポジウム「イノベーションプラットフォームとしてのバイオマテリアル2018」開催について

参考資料1 日本化学連合設立の趣旨、現状、課題、今後

参考資料2-1 日本地球惑星科学連合設立の経緯と現状

参考資料2-2 日本地球惑星科学連合の歴史

以上